

- 《出題傾向》・記述説明重視の傾向に変化はない。
- ・詩の記述式問題も例年通り出題されている。
 - ・本年度の漢字の書き取り問題はことわざを漢字仮名交じりで書き記す筑駒独特の形式にもどった。

試験時間	本文文字数	大問別ジャンル	自由記述	抜出	記号	知識	漢字	*記述度
40分	約4100字	説明・物語・詩	12	0	0	0	1	100%

*漢字の書き取り・読み取りを除いた記述式設問の割合(%)

《解答指針》

- 説明文 片渕 須直「『アニメーション』を考える、ある視点」による。

アニメーションは絵を動かすことで生命感を得るものだといわれる。その意味合いについて、筆者が自身のアニメーション制作経験にもとづいて考察した文章。

動かない漫画の絵にも生命感を感じることはできるが、動くアニメーションの場合は漫画とは異なった意味合いがあるのではないか。アニメーションでは、登場人物に細やかで小さな動きをさせたほうが、ほんとうに生きている人が存在しているという感触を味わえる。そして、省略の行き届いた絵柄で日常的な仕草をするときのほうが、見慣れてきてしまったことの意味を再発見させる効果が顕著である。このような効果に鑑みれば、従来ドキュメンタリーで扱われてきた題材をアニメーションで描くことは意味がある。

問一 ——①「別の次元、異なった意味合いのこと」とは、具体的にどういうことですか。

【読み取りポイント】

動かない漫画の絵にも魂や生命感を感じることはできる。では、動くアニメーションで、ある種の生命感を感じさせるということにはどんな意味合いがあるのか。「人物への物語的な共感」とは異なる、別の次元、異なった意味合いのことがあるべきなのかもしれない。筆者がそう思いながらアニメーションを作る仕事をするなかで、「気づいた」こと、「理解できてきた」ことを読み取って具体的に説明する。

【解答例】

生きている人物がいるような感触を味わわせ、見慣れてきたことの意味を再発見させて驚きを生み出すということ。

問二 ——②「『ほんとうの動き』として受け止めるとは、どういうことですか。

【読み取りポイント】

アニメーションの登場人物にこぢんまりと小さな動きをさせたときに、「どこか、ほんとうに人が存在しているという感触を味わえる」といわれる機会が増えてきた。このことは、人が動く映像を認知するメカニズムを研究する知覚心理学の分野と関係していて、細やかで小さな動きを見るときの方が、人はそれを「ほんとうの動き」として受け止めるのではないか、ということだ。

【解答例】

動く映像では人物の大きな動きよりも細やかで小さな動き方が現実の人間の動きのように認知されるということ。

問三 ——③「まるで絵本のような省略の行き届いた絵柄で、日常的な仕草をするほうが、この効果は顕著である」とありますが、なぜですか。

【読み取りポイント】

「この効果」とは高畑勲のいう「異化効果」、つまり「見慣れてきてしまったことの意味を再発見させる」ことである。「異化効果」は元々演劇理論上の概念で、「日常的に見慣れたものを、見慣れない未知のもののように感じさせて、驚きを生み出す」ことであり、高畑のいう「異化効果」は、その本来の意味合いとは違っている。

どうして、写実的な絵よりも、絵本のような省略の行き届いた絵柄の方が、日常的な仕草のような「見慣れてきてしまったことの意味を再発見させる」効果が顕著なのか。

写実的な絵は日常見慣れた現実と大きな違いは無いが、それが絵本のような省略の行き届いた絵柄になることで見慣れない未知のもののように感じて注目し、その意味を確かめようとする気持ちが生まれるからなのであろう。

【解答例】

日常的な見慣れた仕草も簡略化された絵柄で描かれると未知の動きのように感じられて、その意味を確かめようとする気持ちが生まれるから。

問四 ——④「高畑さんの『異化効果』に鑑みれば、アニメーションがそうした題材にまで手を伸ばすことは間違いなく、意味のあること」とありますが、これについて次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) 「アニメーションがそうした題材にまで手を伸ばす」とは、どういうことですか。

【読み取りポイント】

「そうした題材」とは、内戦問題など、これまで実写のドキュメンタリー作品で扱われてきた題材のことである。そして、「手を伸ばす」とは、「アニメーションで描くべきこと」を拡大していくことである。

【解答例】

実写のドキュメンタリー作品で扱われてきた題材でアニメーション作品を制作すること。

(2) なぜ「意味のあること」なのですか。

【読み取りポイント】

アニメーションの「見慣れてきてしまったことの意味を再発見させる」効果（高畑勲のいう「異化効果」）に照らせば、これまでドキュメンタリー作品で扱われてきた題材をアニメーションで描くことは間違いなく意味のあることと考えられる。つまり、アニメーション作品を通じて、日常生活の中では当たり前のこととされ特に意識されることがなくなった事実の意味を人々に改めて考えさせ、その事実が抱える問題の解決に向けて人々の行動をうながすことが期待できるのである。

【解答例】

日常的で特に意識されることがなくなった事実の意味を人々に改めて考えさせ、その事実が抱える問題解決に向けて人々の行動をうながすことが期待できるから。

二 物語・小説 唯野 未歩子

「はじめてだらけの夏休み 大人になりたいぼくと、子どもでいたいお父さん」による。

父は葉太のために、引き受けていた大事な仕事を後輩に代わってもらって夏休みをとっていたが、後輩から手助けして欲しいと泣きつかれ、「夏休みはもう終わりだ」と葉太に告げる。約束を破られた葉太は怒りから父を激しく責めながらも、すべては自分のせいなのだとも思う。だが、父にはどうしても「わかった」とは言えなかった。そして、母がいなくなった日のように、また、なんにもしたくない病になるのかと思うと、だるくなり、力が抜けていく。そんな葉太に、父が「仕事を手伝ってくれないか？」と声をかける。鼓動が高鳴り、勝手にわくわくして、葉太は「わかった」とふてくされた声をよそおって、さりげなく答える。

問一 ——①「困ったことになった」という言葉を、「ぼく」は最初どのように捉えていますか。

【読み取りポイント】

葉太は、今描いている宿題のポスターのことに気を取られて、顔もあげずに、上の空で父の話を聞いていて、返事もそっけない。だが、「夏休みはもう終わりだ」と父に告げられて驚き、顔をあげて父をみた。

【解答例】

夏休みに影響する大ごととは思えず、自分には無関係な些細な問題だと認識している。

問二 ——②「しかし同時に、敗者もぼくだった」とは、どういうことですか。

【読み取りポイント】

約束を破った父を正論で責めると、父は非を認めてうなだれた。このとき、葉太は勝者であったが、同時に敗者でもあった。「困ったことになった」のは、父が後輩に大事な仕事を任せて夏休みをとったためであるが、それは夏休みを葉太と過ごすためにしてくれたことだった。葉太に反論の余地はなく、父が夏休みを切り上げて仕事に行くのを認めるしかなかった。

【解答例】

父が約束を破ることになったのは、忙しい父がぼくと過ごすために無理をして休みをとったことが原因なのだから、父が仕事に戻るのを認めざるをえないということ。

問三 ——③「お父さんには言いたくない」とありますが、なぜだと考えられますか。

【読み取りポイント】

母にはどんなに嫌なことでも平気なふりをして「わかった」と言えていた。だが、これまで父から仕事のことをまともに聞いたことがなく、忙しい父に何度も約束を破られてきた葉太は、「困ったことになった」のはすべて自分のせいだと思っても、また仕事を理由に約束を破る父を許せず、父には素直に「わかった」とは言えなかった。

【解答例】

仕事のことをまともに話してくれたこともなく、忙しいと何度も約束を破ってきた父が、また仕事を理由に約束を破ることを素直に受け入れたくなかったから。

問四 ——④「ふり返るのは恥ずかしい」とありますが、なぜですか。

【読み取りポイント】

葉太は、自分のために約束を破って仕事に戻らなければならなくなった父を責め、素直に「わかった」と言えなかったのに、父から仕事を手伝ってくれと頼まれると、父の仕事に興味を抱き、心を弾ませた。だが、ふり返るのは恥ずかしいので、わざとまえを向いたまま、ふてくされた声をよそおって、さりげなく「わかった」と答えた。

【解答例】

約束を破って仕事に戻る父を責めていたのに、仕事を手伝ってくれと頼まれると心を弾ませて「わかった」と答える自分がかっこ悪く思われ、その姿を見られるのが照れくさかったから。

三 次の文を、カタカナは漢字に直し、ていねいに大きく一行で書きなさい。

オシえるはマナぶのナカばなり → 教えるは学ぶの半ばなり

四 詩 谷川俊太郎「合唱」

遠くの国で起きた紛争のニュースが伝えられる。人々は様々な意見を交わすが、議論がまとまる兆しはない。また、忙しい日々を追われて遠くの国の出来事に無関心な人々もいる。多忙で非情な現実には僕は苦しみ、憤りを覚えながら、円満な世界を希求する。世界の未来は単純な力の論理で決定されそう。そして合唱という言葉に僕は心を引かれるのだった。

問一 —— 「僕を苦しめる」とありますが、「僕」はどういうことに「苦しめ」られているのですか。

【読み取りポイント】

第一連一行目の「音」は遠くの国で起きた、紛争や事件のニュースであり、二行目の「会話」は一つにまとまることのない様々な意見なのであろう。

【解答例】

遠くの国で起きた紛争について人々は様々な意見を交わすが、議論はまとまらず、解決されないという現実。

問二 —— 「未来は簡単な数式で予言されそうだった」とは、どういうことですか。

【読み取りポイント】

複雑な背景をもつ紛争の成り行きなど、多様な世界の未来が、軍事力などの国力によって、つまり、単純な力の論理によって決定づけられる恐れがあつたのであろう。簡単な数式とは、原爆、原発をつくりだした「 $E=mc^2$ 」（エネルギー＝質量×高速度の二乗）のことなのかもしれない。

【解答例】

複雑で多様な背景を持つ世界の未来が、軍事力などの単純な力の論理で決定されそうだったということ。

問三 —— 「合唱という言葉が妙に僕を魅惑した」とありますが、「僕」はどういうところに引きつけられていますか。

【読み取りポイント】

意見が錯綜して紛争が解決されない現実、単純な力の論理で世界の未来が決まりそう

な現実に苦しみ、円満な世界を希求する僕は、それぞれに個性のある声をもつ人々が心を一つにして美しい調和を生み出す合唱に心を引かれるのである。

【解答例】

それぞれに個性のある声をもつ人々が心を一つにして美しい調和を生み出すところ。

《合格のために》

- 文章中に明示されている心情・要点を組み合わせて構成することで正解となる記述問題は8割以上正答できるようにしておこう。
- 文章中に明示されている内容を基に推論を展開する必要がある問題は7割以上正答できるようにしておこう。
- 特に高度な着想力が必要な問題は5割前後の部分点を確保できるようにしておこう。
- 満点を取る必要はない。7割確保できれば、合格できる。
- 本校の国語問題では、高度な読解内容を、簡潔に、要領よく論述することが求められる。書くべき事柄に気がついても、コンパクトにまとめ上げることは難しい。
- 指導者から直接アドバイスを受けられる環境で、合格答案になるまで粘り強く書き直し作業を繰り返すトレーニングが不可欠である。丁寧な記述問題演習・過去問演習を積み重ねて、本校の出題傾向に対応できる国語力を身につけよう。